

ひびき

教育目標：「なかよく かしこく たくましく」

三本柱：さわやか挨拶 聞き方・話し方名人 いきいき運動

多治見市立共栄小学校 R2年 2月28日

【誘惑は気づかぬうちに子どもの中に…】 校長 宮地 敏彦

日本の公園から小学生の姿が消えてどれくらいになるでしょうか。子どもたちの過ごし方は近年大きく様変わりしました。

現在、子どものインターネット依存の割合が5年前の1.5倍に増えています。ゲーム依存症やネットによる暴言・中傷、金銭トラブルなどは他の先進国の間でも社会問題となっています。

便利で魅力的な道具であり、この先もその機能は進歩し続けることと思います。それゆえに、心身の大きな成長期にある子どもたちにとっては、スマホやインターネット等と健康や安全に関する正しい知識をもって適切に使用してほしいと願わずにられません。ゲーム依存は治療が難しく、予防することが大切です！ 以下に気を付けるポイントを書かせていただきます。



<低年齢化進むゲーム依存>

(1) 時間を決めて使用しましょう。(小学生は1時間以内！)

- ◆長時間の使用は、学力の低下につながる。(全国学力・学習状況調査より)
- ◆携帯電話・スマホとの接触時間が長いほど、就寝時刻が遅くなる傾向がある。また、就寝時刻が遅い子は、イライラするなど心身に影響が出る。

(生活習慣と子どもの自立との関係性に関する調査より)

- ◆依存傾向が進むと、心がスマホに支配され、スマホ中心の生活になる。

(2) 使用の約束を親子で決めましょう。(保護者が管理・監督者！)

- ◆契約も支払いも保護者が行います。親さんが管理・監督者であることを子どもにも理解させ、使用する際の時間帯や場所、使用しないときの保管場所等について約束を交わし、厳守することが重要です。

【子どもにとって本当に“むごい仕打ち”とは？】

昔、徳川家康が8歳、竹千代という名前で今川義元の所へ人質に取られた時の実話です。

義元は『竹千代にはできる限り“むごい仕打ち”を与えよ。』と家来に命じました。“むごい仕打ち”と聞いて思い浮かぶのは、食物や衣服を与えないとか、痛い思いをさせるとか苦しみを与えるなどのことですが、しかし、義元の言う“むごい仕打ち”はその逆でした。

『何不自由なく過ごさせてやれ、暑いときは涼しくしてやり、寒いときは暖をとってやれ。決してひどい思いはさせないで、欲しい物は何でも与えよ。願いは必ず聞いてやれ。』と、けらいに命じました。

これがどうしてむごい仕打ちなのか…？「不便や不自由、忍耐の必要のない生活」を長く続けていたらどうなるか…。きっと不便なことは面倒くさがり、面倒くさいことや嫌なことを我慢することができない、思い通りにならないと怒る、まわりのせいにする…。そんな人格をつくり出すことになると思います。まさしく義元のねらいの一つはそこにありました。長じて竹千代が殿様になったとき、そのような殿様では家臣は従わず、やがて松平家は衰退します。(しかし、賢くて思慮深い竹千代はその策略にはのらなかつたので、後の家康があります。)

『今は時代が違うよ。』と笑ってしまう話かもしれませんが、でも、今の私たちを取り巻く環境を考えると、「ぜいたくをしていないか。」「少しばかり不便なことがあると不満をもっていないか。」「試練や苦難にあった時に、まわりのせいにしていないか。」「がまん、辛抱はできているか。…」現代はスマホやインターネットなどからたくさんの情報を得て、労せずして欲しい物が手に入り、やりたいことがどんどんできてしまいます。我慢しなければならないことは、子どもたちの日常生活でさえ、竹千代の時代よりも多いでしょう。そしてたくさんの情報の中から、自分にとって必要なこと、正しいことを選択することも竹千代の時代よりも難しいと言えます。しかし、品性を磨き、よりよい幸せな人生を送るためには、「忍耐」「抑制」といった場面や、「思い通りにならないこともある」ことを日常生活で学ぶことは、幼き日ほど大切だと思います。